

広島・三次市立三和小学校

広島県三次市立三和小学校
(曾利晋三校長、児童145人)は平成14年度から「数学的な考え方の育成」に取り組み、19年度はさらに発展させ、松下教育研究財団の助成を得て「思考力・表現力の育成」に取り組んできた。

20年度は2年間の助成で、ICTを効果的に活用した国語科・算数科の授業改善を通して、研究主題「論理的に考え表現する力を育成する授業の創造」に取り組んでいる。研究代表者の愛甲昌弘教諭
「写真」は「見通しを持って筋道を立てて考え、それを友達に分かりやすく伝える能

論理的に考え表現する力育成へ

力、自分の意見や主張を最後まで言い切る力に課題がある」と子どもたちの現状を話す。三次市は中国地方のほぼ中央に位置しており、農業が



算数・国語で ICT活用し授業改善

主要産業の地域。子どもたちは幼少時から同じ集団で過ごしているため、言葉が少なくてもコミュニケーションが成立してしまう、という地域性も要因の一つだと同教諭は分析する。

一方、指導する教師側にも、ICTの活用を受け身であったり、研究内容を教師全員が十分に理解し共有しているかどうか課題が多いという。このような課題を克服する活動として、愛甲教諭ら研究

チームは3つの柱を挙げる。

第1は授業の改善。算数科では視覚機器の効果的な活用を図って数学的な考え方を伸ばす。国語科では電子情報ボードなどを活用して説明的文章への理解力を深め、確かな表現力を身に付けさせる。

第2は校内研修の活性化と研究内容の共有化。第3は取り組み内容をさらに高めるため研究の推進状況を評価すること

と。これにはPDCAサイクル(計画、実施、点検、改善)の手法や外部評価を取り入れる考えた。

とはいえ、「論理的に考え表現する力」が身に付いたかどうかをいかに客観的に評価するか、あるいは教師の手応えを第三者に対してどう具体的に説明するか、といった方法には難しさが付きまとう。さまざまな課題はあるが、教職員一丸となってチャレンジしていく決意だ。

◇この連載は、(財)松下教育研究財団(URL: <http://www.nef.or.jp/>) および助成先の協力により実施しています。